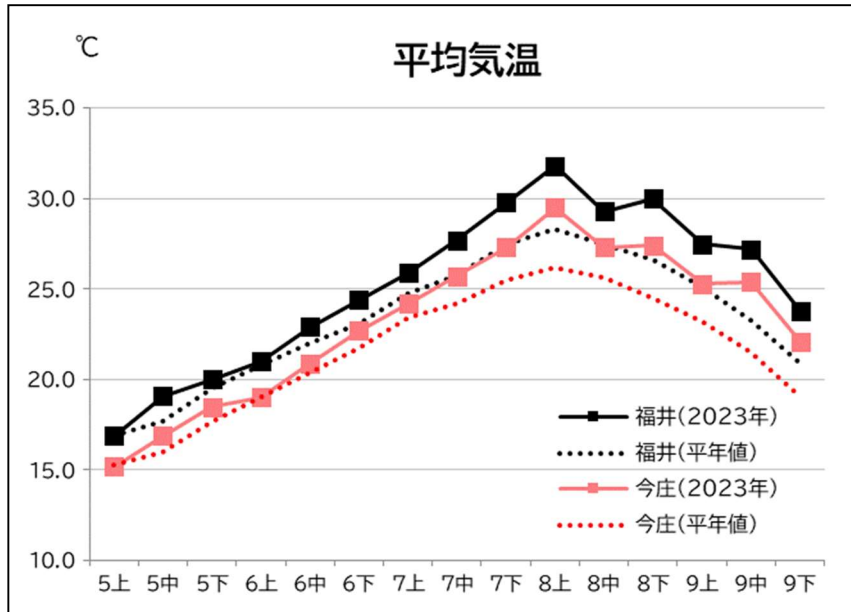


気象経過と生育概況



■4・5月

4月下旬は最低気温が10℃を下回る低温の日が多く、田植え後の早生品種で初期生育が停滞したものの、5月上旬以降生育期間を通して平均気温が高く、その後の生育は順調でした。

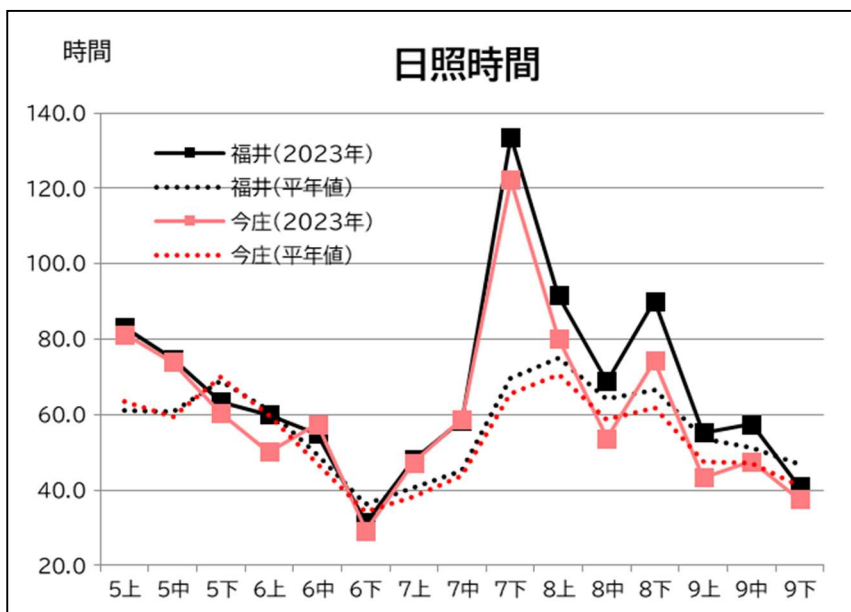
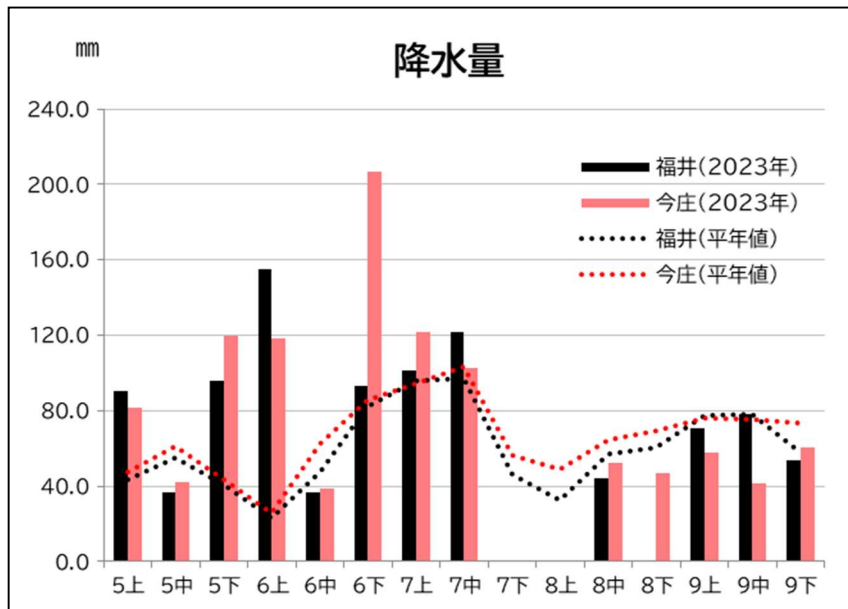
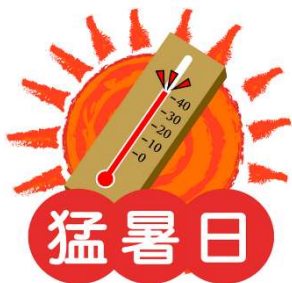
■6月

5月下旬～6月上旬にかけて降水量が多く、コシヒカリや直播栽培で茎数不足気味でしたが、その後気温の上昇とともに回復し、6月下旬には概ね平年並となりました。

■7月

田植え後の気温が高く推移し、各品種とも出穂がはやまりました。

また、梅雨明け(北陸:7月21日)以降降水量がなく、猛暑日が20日間連続するなど記録的な暑さとなりました。



■8月

出穂期以降も極めて高温で推移したことで、コシヒカリを中心として全国的に乳白米による格落ちが顕著になっています。



整粒



乳白粒



背白粒



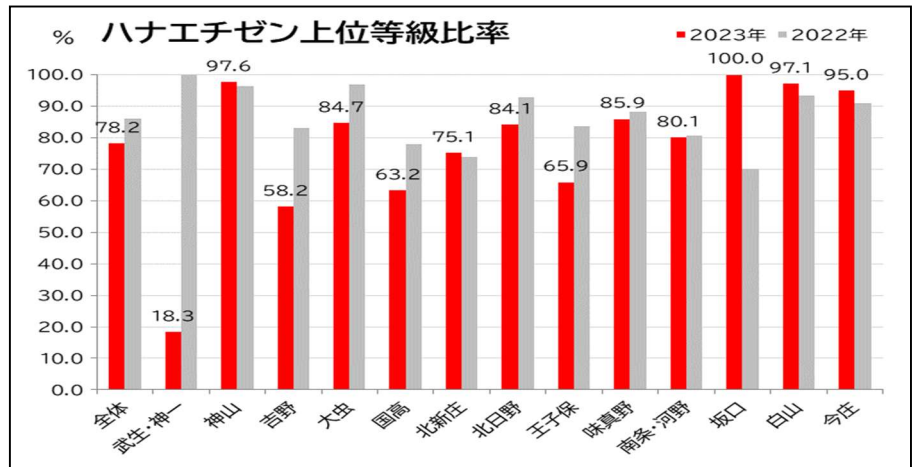
白未熟粒

2023年産米 主要品種品質概況

倉前検査データより※10月4日現在

■ハナエチゼン

5月は降水量が多い日や低温の日があり初期成育が一時停滞しましたが、5月下旬から気温が平年より高く推移したため分けつが旺盛で、6月末では平年並みの生育量となり、出穂期、収穫期が3～5日程度早くなりました。品質についてはカメムシ被害が少ない反面、出穂期以降の高温強日射による乳白米や、刈遅れによる胴割米が例年以上に発生しました。

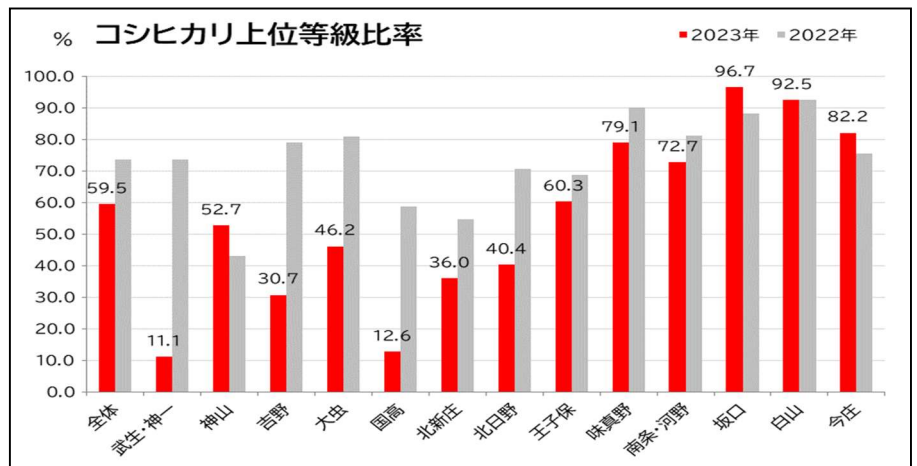


2023年産 主な格落ち理由

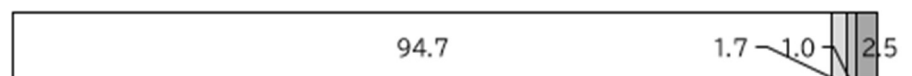


■コシヒカリ

出穂期は平年並みでしたがその後、8月に入っても高温傾向は収まらず平均気温30℃以上の日が8月末まで続いたことにより高温障害による乳白米が多く発生し平坦地ほど顕著でした。また、高温下で稲体の栄養消費が多かったことにより登熟期の葉色が極端に淡かった圃場では胚芽付近が白くなる基部未熟米の発生が多くなりました。



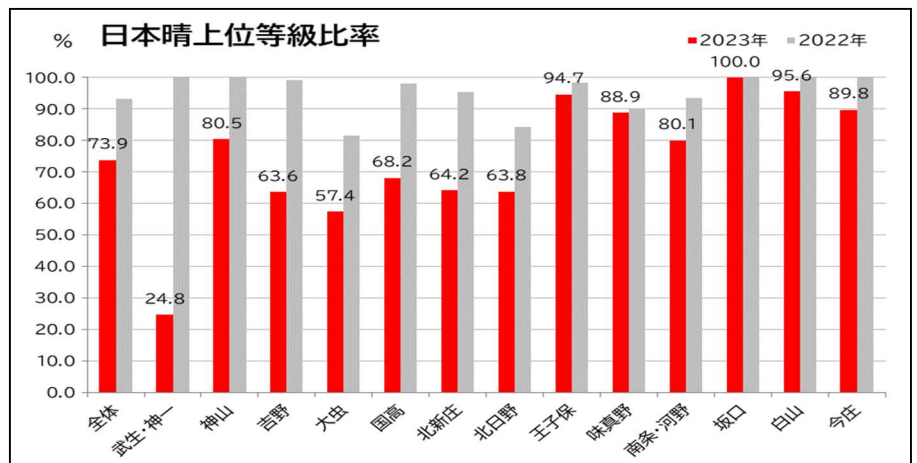
2023年産 主な格落ち理由



■日本晴

記録的な猛暑で推移したことによる高温障害がコシヒカリ同様多くなりました。また、過剰分けつにより籾数が増加した事が原因で、基部未熟粒の発生が多くなりました。

カメムシによる斑点米は全体的には例年より少なかったと思われませんが、局地的に大きな被害を受けている圃場も見受けられました。



2023年産 主な格落ち理由

